

# 目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	経済学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）

## II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. GPA (Grade Point Average) の実質化 (例. 課程修了認定、奨学金推薦、および研究科進学、などの要件) により、学生の経済学専門能力の水準を引き上げる。	→卒業時におけるGPA。GPAに基づく奨学金獲得者数や研究科への進学者数。	C	B	C	/	/
2. ERE (Economics Record Examination: 経済学検定試験) や日経TESTによる経済学専門能力の単位認定をする。	→ERE (Economics Record Examination: 経済学検定試験) や日経TESTの受験者数とその成績 (平均点)。	C	C	C	/	/
3. ゼミナール (基礎演習や研究演習) 活動を報告、公表する。	→HPでのゼミナール活動に関する報告の公表、更新。および、アクセス数。	B	B	B	/	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

### 《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	GPA成績優秀者による奨学金についての検討は進捗はなし。
目標2	E. R. Eや日経テストの制度化はしておらず、課程修了時における学生の学習成果を測定するための経済学部ならではの評価指標の作成が必要である。
☆ 目標3	ゼミナールの活動をホームページやfacebookページで紹介しており、ゼミ選択時だけでなく入学志願者が入学後のイメージをつかむための方法のひとつとなっている。ゼミ毎に広報委員を置き、情報を収集するシステムを始め、ゼミ活動の情報収集と情報提供のサイクルを構築し始めたところである。
備考	